

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人鹿児島大学

1 全体評価

鹿児島大学は、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指している。第3期中期目標期間においては、南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化し、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成するとともに、18歳人口減少問題やグローバル化を視野に入れ、「進取の気風にあふれる総合大学」に相応しい大学改革を実施するため、グローバルな視点を有する地域人材育成の強化等を基本目標に掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、学長による県内全市町村長との意見交換を実施するとともに、全学部における国際バカロレア入試の実施を進めるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 鹿児島商工会議所との連携による「就活応援フェア」（107社参加）や、鹿児島銀行との共催による「地元企業との意見交換会」等、県内への就職を促進するための取組を実施するとともに、全学年対象の業界・職種研究セミナーを28回開催し、平成27年度の1.8倍となる467名の学生が参加している。（ユニット「地域人材育成及び地域連携の推進」に関する取組）
- 欧州獣医学教育認証の取得に向けて、産業動物診療拠点となる大動物診療センター及び大隅産業動物診療研修センターを整備しているほか、共同獣医学部の自己評価報告書の平成28年度改正版を作成してEuropean Association of Establishments for Veterinary Education関係者による非公式訪問審査を受審している。（ユニット「欧州獣医学教育認証取得」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載26事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 学長による県内全市町村長との意見交換の実施

地域活性化の中核拠点として、地域のニーズを大学運営に反映するため、学長が鹿児島県内の全43市町村を訪問し、首長と意見交換を行っている。各市町村からは、地域の子供たちとの交流促進や自治体への優秀な人材の輩出等、大学に対する具体的な要望や、鹿児島大学が地域の大学であるとの意識が高まったとの反応が示されるほか、訪問をきっかけとして自治体との連携による学生の地域インターンシップの取組が開始されるなど、地域との連携が促進されている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載15事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 地域への情報発信の強化による附属動物病院収入の増

附属動物病院において、伴侶動物にかかる症例数を拡大し、増収を図るため、鹿児島県愛護センターとの共同開催による市民セミナー及びペット相談会を全6回開催するなど、地域への情報発信を強化した結果、附属動物病院全体で平成28年度の診療収入額は目標値に対して1,057万円増の1億6,213万円となっている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載18事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ クロスアポイントメント制度の活用によるセキュリティ人材の確保

クロスアポイントメント制度を活用し、民間企業からサイバーセキュリティに関する専門家1名を特任教授として採用している。同教授は新たに設置したサイバーセキュリティ戦略室長として総合的戦略の確立や最新の技術動向等の調査、インシデントへの事前対策及び事後対応等の業務を行っているほか、共通教育科目(情報セキュリティ入門)を担当して学生に対する教育活動に従事しており、民間企業のノウハウを生かして学内の情報セキュリティの強化に向けた取組が実施されている。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 全学部・学科等における国際バカロレア入試及び外部英語試験の導入

実現力や主体的に学び考える力などを備えた人材やグローバル人材を育成するため、平成29年度入試において、国際バカロレア入試を全学部で実施するとともに、国立大学として初めて外部英語試験を全学部・学科等の入試で導入している。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ 地域医療を支える看護師の育成

地域医療を支える看護師の育成に向けて、看護師の特定行為研修を推進するため、看護師特定行為研修センターを設置し、九州の国立大学病院として初めて特定行為研修指定研修機関として指定を受け、7名(うち他施設からの受講者4名)の研修生に対して、病院長のリーダーシップの下、各分野の医師、医療職員、事務部等が協力して研修指導等を行い、7名全員が修了している。

(診療面)

○ 医科歯科連携による医療提供体制の強化

医科の全身麻酔手術における術後肺炎に代表される肺合併症等の予防、軽減を主目的とした医科歯科連携強化の一環として、歯科口腔ケアセンターが病院の2診療科(消化器内科と血液・膠原病内科)と新たに連携して、周術期口腔機能管理対象症例について入院時から関与できる体制の強化等に取り組んだ結果、歯科口腔ケアセンターに医科から紹介を受けた新規の患者数は1,229件(対前年度比210件増)となっている。

○ 地方自治体との連携による一類感染症に対する医療体制の構築

鹿児島県で唯一の第一種感染症指定医療機関としての中心的役割を果たすべく、鹿児島県及び鹿児島市保健所とともに一類感染症対応の合同訓練を行い、地方自治体との連携強化を図り、一類感染症患者発生時における医療体制の構築を推進している。

(運営面)

○ 離島における地域医療の充実に向けた取組の推進

病院と瀬戸内町において包括連携協定を締結し、離島での医療福祉を支える人材育成や産業振興、ネットワーク環境構築等のために連携・協力する体制を構築するなど、地域医療の充実に向けた取組を推進している。